

防災小説「お茶中生の奇跡～九死一生ストーリー」授業案

授業の趣旨(生徒に示したもの)

<p>夏休みまでの国語の学習4時間で「防災小説」の創作に取り組みます。</p> <p>「防災小説」とは、自身が災害に遭遇することを「自分ごと」として考えることを目指した学習プログラム教材です。(防災小説サイトhttps://www.bosai.sfc.keio.ac.jp/))</p> <p>近未来(今から2ヶ月後以内、つまり、7月～9月)の特定の日時に巨大地震が発生したと想定し、自分を主人公とした物語を綴ります。その時自分は何をしているか、どんな気持ちになるか、町の様子はどうか、などを想像します。</p> <p>「まだ」起きていない未来の地震を「もう」起きたものとして描くのが特徴です。</p> <p>唯一のルールは「物語は希望をもって終えること」です。</p> <p>後の世の人たちから「お茶中生の奇跡」と呼ばれるような、九死に一生を得る物語を創っていきましょう。</p> <p>完成した作品集は、鶯住居「いのちをつなぐ未来館」に送ります！(生徒祭でも展示します)</p>

目標と評価基準

	目標	評価規準
知識・技能	情報の信頼性の確かめ方を理解し使うことができる。	防災に関する信頼性の高い情報源を選び、正確な情報を収集している。 防災に関する基礎知識を適切に小説に反映している。
思考・判断・表現	「書くこと」において、目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、集めた材料の客観性や信頼性を確認し、伝えたいことを明確にすることができる。	「九死一生」の地震発生時の様子を生々しく想定し、必然性を持ってリアルに描写している。主人公(自分)の行動や感情が無理なくリアルに描かれていて、読者に防災知識や行動の重要性が伝わるものとなっている。(読者が思わず引き込まれる、身につまされるものとなっている)
主体的に学習に取り組む態度	他者に防災の重要性を伝えるために、より印象的な小説の表現になるように何度も練り直すなど、試行錯誤しようとしている。	生成AIや教師、級友からのフィードバックを受け入れ、作品がよりよいものとなるように改善しようとしている。

授業の流れ

	流れ	
1	「防災小説」の概要について知る。 小説の基本的な設定(時・場所・人物)を考える。 震災時の「九死に一生」の状況を考えてシミュレーションをしてみる。	教室
2	シミュレーションに基づいた、小説のプロット(仮)を完成させる。 小説を執筆し始める。	教室
3	前時に作成したシミュレーションやストーリーについて、グループで見合	図書室

(本時)	い、足りない部分がないか考える。生成AIにも首都直下型地震の被害状況についてシミュレーションをしてもらう。級友や生成AIのアドバイスを受けて更に洗練させる。	
課外	校外学習「そなエリア東京」で防災体験学習をし、地震が起きた時の状況や心境をイメージする。	
4	「防災小説」を完成させ、Canvaで本文、挿絵をつけて完成させる。	教室

防災小説用にチューニングしたChatGPTs

<https://chatgpt.com/g/g-ljzzB1XU3-fang-zai-xiao-shuo-asisutanto-inotimamoruuiun>

生徒に提示したワークシート「渡辺先生も作成中！」より

1 小説の設定

いつ(時)	2024年 8月 8日 11時45分 ※7月～9月までの間とする。	何をしている?どんなタイミング? 家族で買い物。 フードコートで昼食を食べている
どこで(場所)	場所 イオンモール幕張新都心	より具体的に言うと? 2階フードコート、牛カツ屋
だれが(登場人物)	自分(仮名にする) 渡辺浩二	どんな人柄?(行動・心情パターン) いつもは沈着冷静に振る舞っているけど、パニックになると、何も決断できず、立ち止まってしまうタイプ。 他人のことよりも自分を優先してしまいがち。運動は苦手。デジタル好き。
	他の人 渡辺まさる	どんな人柄?(行動・心情パターン) 渡辺浩二の子ども。男児5歳。 親から離れるのをすごく嫌がる。 カワウソ好きでぬいぐるみを買ってもらうことになっている。 抱っこ好きの甘えん坊。どちらかといえば父よりも母好き。
	渡辺知世	渡辺浩二の妻であり、まさるの母。我が子を溺愛し、自分の命よりも我が子を大切にしたいほどの思いがある。 責任感が強い。いざとなったらすぐに体が動く、頼もしいタイプ。

	警備員 大勢のお客さん	大学生のバイトで、やる気だけはあるが、ことごとくいい加減な指示を出してしまい、お客さんを大混乱させてしまう。 警備員に従うも、パニックになって逃げ惑う。情報が混乱し、デマも発生して右往左往する。何人かはエレベーターや倒壊したビルにとじこめられてしまう。
九死に一生のピンチ (クライマックス)	クライマックス 危険を察知して、隣のコストコに命からがら逃げる。コストコの駐車場の坂道を上がり、逃げようとするが、坂が急なので、駆け下りたはずみで滑り落ちてしまう。	伏線はどうする？ かわうそのぬいぐるみを投げ捨てると、まさるがそれを取ろうと追いかけてしまい、駐車場の坂道を転げ落ちてしまう。
結末	妻が子どもを抱きかかえて、坂道を一気に駆け上がる。そのタッチの差で津波が幕張の街を飲み込んでいく。九死一生を得た。	結末ルール 物語は希望をもって終えること
最後の一文	妻が鬼のような形相で我が子を抱えて坂を駆け上ってきた、その直後に、黒い壁が私達を襲ってきた。津波だった。私はその場に立ちすくし、2人の様子をただただ傍観しているだけだった。妻と我が子を抱きしめた。なにも声も出なかったが、激しい息遣いを全身で受け止めた。確かに生きていた。わたしたちは、助かったのだ。	

2 小説のプロット(被災状況のシミュレーション) できるだけ詳細に！

1. 家族3人でイオン幕張で買い物。フードコートでいつものように牛カツを食べ始めていた。
2. いきなり、足元から突き上げるような激しい振動。フードコート全体で絶叫。
3. 揺れが収まるまでテーブルの下で避難。味噌汁や牛カツがテーブルから落ちて床に散乱してしまう。
4. と、停電で真っ暗になる。スマホのライトで照らす。館内放送もできないようだ。
5. 警備員さん、危ないのでしばらくその場に待機しててください！大丈夫です！
6. 大人しく従う人と、従わずに逃げ出す人とでパニックになりだす。
7. スマホで調べると、震度7の超巨大地震が発生した模様。
8. もう一度、大きめの揺れ。
9. 牛カツやのキッチンから火を拭き出した。もくもくと煙が出てきた。
10. 警備員さん、「火を消すのを手伝ってください！」(その後、何人かは煙に飲まれて犠牲になったらしい)
11. 「やばい！ここを脱出しよう！」消火活動をしようとも思ったけど、子供がいるのでその場を離れることを優先することにした。
- 12.
- 13.

3 物語の下書き

4 参考資料、他からのフィードバック(貼り付けておこう)